

安全データシート

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称	QuantiChrom LDH Cytotoxicity Assay Kit (100tests)
コンポーネント名	Tergitol
商品コード	BAS社 商品コード:C2LD-100
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2－9－7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03－5684－5107
FAX番号	03－5802－5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	OTH0416V03 (2025/4/1)
2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)	
化学品のGHS分類	
健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(吸入:ミスト) 区分4 皮膚腐食性／刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分1 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。
GHSラベル要素 絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H302+H332 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 H315 皮膚刺激 H318 重篤な眼の損傷 H336 眠気又はめまいのおそれ H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き 安全対策	粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261) 取扱い後は眼や手をよく洗うこと。(P264) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280) 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312) 皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。(P302+P352) 吸入した場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。(P304+P312) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着 用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 (P305+P351+P338) 口をすすぐこと。(P330) 皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。(P332+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。(P362+P364) 漏出物を回収すること。(P391)
応急措置	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
保管	

廃棄

内容物や容器を、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

他の危険有害性

重要な徴候及び想定される非常
事態の概要

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(C12－14)
CAS番号	84133-50-6
濃度又は濃度範囲	10%以上
化学式	
化審法官報公示番号	(7)-97
安衛法官報公示番号	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤。
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所へ流してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 眼や皮膚との接触、飲み込まないこと。 蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 環境への放出を避けること。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく眼と手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉して換気の良い涼所で保存すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	消防法で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度(産衛学会)	未設定
許容濃度(ACGIH)	未設定
設備対策	取り扱いの場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体(C11EO、酸化エチレン(EO)の付加モル数不明)
色	無色～黄色(C11EO、酸化エチレン(EO)の付加モル数不明)
臭い	データなし
融点／凝固点	16℃(C12EO3)、26℃(C12EO6)、25℃(C14EO3)、35℃(C14EO6)、 32℃(C16EO3)、37℃(C16EO6)、42℃(C18EO3)
沸点又は初留点及び沸騰範囲	182℃(C12EO4)、186℃(C12EO5)、230℃(C12EO6)、283℃ (C12EO9)、183℃(C14EO4)、193℃(C16EO4)、214℃(C18EO4)
可燃性	データなし
爆発下限界及び上限界／可燃 限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	> 10000mg/L(C12EO40)
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	log Pow = 3.45(C10EO8)、4.53(C12EO8)、5.61(C14EO8)、5.91 (C14EO14)、5.01(C14EO14)
蒸気圧	< 0.1mmHg(< 13.3Pa)(20℃)(組成不明)
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	加熱や燃焼により分解し、刺激性の煙やヒュームを生じる。
避けるべき条件	加熱や燃焼
混触危険物質	データなし

使用、保管、加熱の結果生じる 刺激性の煙やヒューム
危険有害な分解生成物
その他

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットを用いた経口投与試験のLD50 = 544mg/kg (アルキル基の炭素数14～15、エチレンオキシドの付加モル数11)、9800mg/kg (アルキル基の炭素数10、12、14、エチレンオキシドの付加モル数2～7) (CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))のうち低い値である544mg/kgから区分4とした。

経皮

ラットのLD50 = > 2000mg/kg及び8000mg/kgでも死亡がないことから区分外とした。

吸入(ミスト)

ラットを用いた吸入ばく露試験のLC50 = 1.5mg/L (アルキル基の炭素数12～13、エチレンオキシドの付加モル数6) (4時間)から区分4とした。

皮膚腐食性／刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、原液(アルキル基の炭素数12～13、エチレンオキシドの付加モル数不明及びアルキル基の炭素数12～15、エチレンオキシドの付加モル数不明)の場合、24時間適用で中等度から重度の刺激性がみられた(CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))との記述があることから、4時間適用ではないが、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験で、原液(アルキル基の炭素数12～13、エチレンオキシドの付加モル数6、アルキル基の炭素数14～15、エチレンオキシドの付加モル数7)は強度の刺激性を示し、35日経っても正常に戻らず、非常に強い刺激性を有し、21日間以内に回復しない(CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))との記述から、非可逆的であると考えため、区分1とした。

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

データ不足のため分類できない。なお、皮膚を刺激する可能性がある(HSDB(2013))との記述がある。

生殖細胞変異原性

経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験、小核試験)で陰性(CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))との記述から区分外とした。

発がん性

毒性試験データの記載(CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))はあるが既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類できないとした。

生殖毒性

ラットの生殖毒性試験、催奇形性試験で、生殖毒性影響がみられていない(CERI・NITE有害性評価書 No.89(2005))ことから区分外とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

実験動物については、傾眠、運動性亢進、運動失調(RTECS(2006))との記述があることから、麻酔作用を有すると考えられた。以上より、区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 誤えん有害性

データなし

データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

アルキル基の炭素数で判定が分かれるもので、政府による分類では以下の理由により「区分1(C14AE1、C14-15AE7)、区分2(C12-15AE12)」であるが、NITEにより区分1とした。

C14AE1: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 0.14mg/L (CERI・NITE有害性評価書(2005))から、区分1とした。C14-15AE7: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 0.62mg/L (CERI・NITE有害性評価書(2005))から、区分1とした。C12-15AE12: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 1.4mg/L (CERI・NITE有害性評価書(2005))から、区分2とした。(注)ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテルはエチレンオキシド鎖長が短くなるほど毒性が強まることから、いくつかのエチレンオキシド鎖長について分類を例示した。なお、ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテルをCmAEn (m: アルキル基の炭素数、n: エチレンオキシドの付加モル数)と略号を用いて記載した。

水生環境有害性 長期(慢性)

アルキル基の炭素数で判定が分かれるもので、政府による分類では以下の理由により「区分1(C14-15AE7)、分類できない(C14AE1、C12-15AE12)」であるが、NITEにより区分1とした。

	C14-15AE7: 急性毒性が区分1、C12AE40のBODによる分解度が74%であることから、急速分解性があると推定されるものの、C14AE7のBCF = 700～800(CERI・NITE有害性評価書(2005))より生物蓄積性があると推定されることから、区分1とした。C14AE1、C12-15AE12:C12AE40のBODによる分解度が74%であることから(CERI・NITE有害性評価書(2005))、急速分解性があると推定されるものの、生物蓄積性はアルキル基の炭素数及びエチレンオキシドの付加モル数によって異なり、各組成についてのデータが得られないことから、分類できない。(注)ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテルはエチレンオキシド鎖長が短くなるほど毒性が強まることから、いくつかのエチレンオキシド鎖長について分類を例示した。なお、ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテルをCmAE _n (m:アルキル基の炭素数、n:エチレンオキシドの付加モル数)と略号を用いて記載した。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
魚毒性／その他	データなし

13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に危険が及ばないように十分注意すること。
汚染容器及び包装	関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	Not Applicable
UN No.	
Proper Shipping Name	
Class	
Sub Risk	
Packing Group	
Marine Pollutant	Not Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
航空規制情報	Not Applicable
UN No.	
Proper Shipping Name	
Class	
Sub Risk	
Packing Group	
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	非該当
国連番号	
品名	
国連分類	
副次危険	
容器等級	
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	非該当
国連番号	
品名	

国連分類
副次危険
等級
特別の安全対策
緊急時応急措置指針番号 なし

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)【第460号 ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル】
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(C12－14)
アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。・含有する製品は、第1種指定化学物質質量の割合が1質量%以上であって、次の各号のいずれにも該当しないもの。(施行令第5条) 1 事業者による取扱いの過程において固体以外の状態にならず、かつ、粉状又は粒状にならない製品 2 第1種指定化学物質が密封された状態で取り扱われる製品 3 主として一般消費者の生活の用に供される製品 4 資源の有効な利用の促進に関する法律第2条第4項 に規定する再生資源

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)【1953 ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)]
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(C12－14)
アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。・含有する製剤その他の物。ただし、含有量が1重量%未満のものを除く。(施行令第18条の2第3号、令和5年11月9日告示第304号)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)【1953 ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)]

ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(C12－14)
アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。・含有する製剤その他の物。ただし、含有量が1重量%未満のものを除く。また、運搬中及び貯蔵中において固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物(次の各号のいずれかに該当するものを除く。)を除く。第1号 令別表第1に掲げる危険物 第2号 危険物以外の可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物 第3号 酸化カルシウム、水酸化ナトリウム等を含有する製剤その他の物であって皮膚に対して腐食の危険を生ずるもの(施行令第18条第3号、安衛則第30条、令和5年11月9日告示第304号)

化審法 優先評価化学物質(法第2条第5項、平成23年4月1日告示第7号)【189 α -アルキル- ω -ヒドロキシポリ(オキシエチレン)】
アルキルはC=12～15・数平均分子量が1,000未満のものに限る。

16. その他の情報

参考文献 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス
日本ケミカルデータベース ezCRIC+
化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
Hazardous Substances Data Bank(HSDB)
一般財団法人 化学物質評価研究機構 有害性評価書 No.89
環境省 化学物質の環境リスク評価 第8巻

その他 ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。

- ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
- ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。